

2018年9月26日

ECC 国際外語専門学校 学校関係者評価委員会報告書

学校法人山口学園
ECC 国際外語専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき 2018 年度第 1 回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

- 1 実施日時 2018 年 9 月 8 日(土) 14:00 - 16:00
- 2 実施場所 ECC 国際外語専門学校 1 号館 4 階 401 教室
- 3 学校関係者評価委員(ECC 国際外語専門学校 学校関係者評価委員会実施規定に基づく)

(1) 関連業界等関係者

- | | |
|---------|---|
| 三橋 滋子氏 | 一般社団法人 日本添乗サービス協会 会長 |
| 下西 由子氏 | 大阪セント・レジス・ホテル株式会社
レーニング アンド デイバロップメント アシスタントマネージャー |
| 小椋 圭一郎氏 | 社会福祉法人 日本ヘルケラー財団 副理事長 |
| 貴治 康夫氏 | 立命館高等学校 教員 |
| 栗岡 史哉氏 | ECC 国際外語専門学校 大学編入コース 卒業生 |

(2) 本校関係者

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 瀧山 淳一 | ECC 国際外語専門学校 学校長 |
| 大谷内 圭 | ECC 国際外語専門学校 副学校長・教務課責任者 |
| 伊藤 功 | ECC 国際外語専門学校 進学指導センター センター長 |
| 川添 雅英 | ECC 国際外語専門学校 学園留学生事業部副責任者 |

東井 喜美	ECC 国際外語専門学校 教務課副責任者
松井 治	ECC 国際外語専門学校 英語課責任者
福本 雄三	ECC 国際外語専門学校 キャリアサポートセンター センター長
洪 錫吉	ECC 国際外語専門学校 入試課責任者
斎藤 晃子	ECC 国際外語専門学校 エアラインコース主任専任教員
三木 武志	ECC 国際外語専門学校 学園自己点検評価室長
山本 昂輝	ECC 国際外語専門学校 キャリアサポートセンター
宇佐見 眞也	ECC コンピュータ専門学校 学校長

4 報告内容

(1)「組織概要」報告者：瀧山

学生数は今年度 982 名の新入生を迎え、合計 1779 名が在籍しておりその内 34%が留学生となっている。また、新たに進学を目的とした学生を対象とした「進学指導センター」を設置し、大学・大学院進学に向けて指導を行っている。

・設置学科一覧紹介(下記参照)

-アジア言語学科	アジア言語コース
-国際ビジネス学科	大学編入コース
-国際ビジネス学科	国際ビジネスコース
-国際留学学科	語学留学コース
-ホテル・観光学科	ホテルコース
-ホテル・観光学科	トラベルコース
-エアライン学科	エアラインコース
-こども教育研究学科	こども英語コース
-総合英語学科	総合英語コース
-国際キャリア学科	海外インターンシップコース

(2)「基準 1 教育理念・目的・育成人材像」報告者：瀧山

専門学校として特色ある教育活動に取り組み、実践的な授業を多く取り入れつつ、中期的な視点も併せ持ちながら運営していくことが重要だと考えている。今後は企業連携を通じて、業界の動向やニーズをいち早く捉え、教育課程編成や授業計画策定に取り組んでいく予定であり、また学校の将来構想を学生や教職員だけでなく、保護者や関連業界にも広く周知する場を設け、協力体制をさらに拡大していく。しかしながら、課題として教育理念が教職員へ

浸透しているかを考えており、また、教材選定等においても今後さらに企業様の意見を活かしていかなければならないと考えている。

(3)「基準 2 運営方針・事業計画」報告者:瀧山

学園、学校の示す方向性をいち早く教職員間において共有し、浸透させていくことが必要であると考えており、今後も適材適所の人員配置を最優先し、教職員が能力を最大限に発揮できる体制を構築するとともに各種システムを整備し、業務の効率化を進めていく。

特記事項として、建物が3つあり様々な学生がいるので横のつながりを強化していく必要があると考えている。また、年間計画について年2回振り返りを行いPDCAサイクルに基づいて改善を行っていく予定である。その他職員の評価についても年2回評価を行っており、適材適所の人材配置を行っていく。

報告者:伊藤

進学指導センターについて、大学・大学院進学を考える日本人、留学生に対してサポートする為進学指導センター設立し、進学実績向上に向けて就職と進学の2本柱で運営していく。

報告者:川添

留学生センターについて、日本語学科と留学生専門課程がある。

日本語学科は、留学生に対して半年から2年間で日本語を指導し、留学生専門課程については社会で活躍する人材育成に向けて運営を行っている。

(4)「基準 3 教育活動」報告者:松井

英語学習について年々指導を強化しており、特に英検について年毎に大幅に合格者を輩出している。また、対策授業についても重点的に指導強化を行っている。特に英検 準1級については18名から26名と大幅に合格者が増加し、2級に対しても大幅に増加しており今年さらには多くの合格者を見込んでいる。また、英語学習制度としては、基本英語能力の強化に向けて、週15コマ中8コマを授業設定しており、ベーシッククラスについてはその内5コマを設定し、10月の試験で準2級合格を目指して指導を行っている。さらに、ELC(English Learning Center)を3年前に設立し、学生の訪問者が激増しており一昨年2844名、昨年7434名、今年は半期終了時点ですでに6000名以上で1万名を超える予想である。その他様々なプログラムを設定し、英語力向上の取り組みを行っている。続いてEIP(ECC International Plaza)について、主に英会話についての場を昼休み・放課後に提供している。また、セブ短期留学について一昨年19名、昨年69名、今年は98名が参加しており年々増加している。以上の英語学習を通して、株式会社ECC主催のスピーチコンテストでは2017年度にグラントプライズ・1位・3位の3名の入賞者を輩出した。2018年度取り組みでは新任講師トレーナー制度、オンライン英会話導入(25分マンツーマンレッスン)、スピーキングチェックレッスン(年4回ネイティブが学生個人に対して評価)を行っている。そして2018年度の英

検における文部科学大臣賞連続受賞を目指していく。

報告者:伊藤

学校全体として、外部の企業様・大学様のニーズに合わせた人材育成という部分の確認が重要だと考えている。特に進学指導センターにおいては進学先が多岐に分かれているため、様々な学部での研究に対応に対なければならぬ課題が多くある。

報告者:川添

留学生専門課程について、キャリア教育では就職することが目的ではなく長く社会に有用な人材となるよう教育することが大事であると考えており、インターンシップや日本人との交流プログラムを通して協調性、チーム力を高めている。

(5)「基準4 学修成果」報告者:福本

2020年3月卒業生の就職状況について、8月末時点で全体内定率は78.1%で昨年の同月では76.6%と昨年よりも上回っている。またコース毎においては、エアラインコースにてCA職をいかに多く輩出するかが課題となっているが、今年度は延べ16名で昨年の8名を大幅に上回った。CA職については英語力が絶対条件になっており、最低600点だが、目標として700点を取得させる為の指導を行っている。その他ビジネス系コースにて特に語学系の3コースは就職の特徴としてインバウンド需要にて語学のニーズが高まっており、色々な職種で内定をいただいている状況である。特にホテル業界や物流業界にて顕著な動きがあり、今後は卒業までに就職率100%を目指して取り組んでいく。

報告者:伊藤

大学進学について2018年3月卒業生の106名対象者の内103名が大学へ進学を決めており、述べ140名の合格者のうち38.6%以上が国公立大・関関同立に進学をしている。今後は、学習指導・学生指導の連携強化を課題とし、学内の連携を行っていく。

報告者:川添

留学生専門課程の目的として日本語能力の習得・就職を目指している。

日本語習得については問題なく力をつけているが、就職に関して就労ビザの問題があり、許可が下りず帰国になってしまう場合があるので、そこを課題として運営を行っていく。

(6)「基準5 学生支援」報告者:福本

就職に関する専用指導室として「キャリアサポートセンター」を設置するとともに、クラス担任他関連教職員含め、一丸となって学生の就職活動を支援する体制も整備している。また、入学年次より正規科目として「就職対策授業」を組み込むことで本格的な就職活動を行う際に必要となる

就職力を習得させている。なお、今後は語学系コースに関連する企業とのさらなる連携強化が課題となる。

報告者: 東井

学生支援について、経済面、健康管理面、学生寮、課外活動に関して実施しており、チームとして運営行うことで退学防止を目指している。現在の退学率は1年生で99.0%、2年生で99.4%で推移しており、後期も現在の状況を維持する為に取り組む予定である。また、留学生についてもビザの申請等含めた幅広いサポートを行っていく。さらに卒業生に対しては昨年「ホームカミングデー」という校友会を実施し、卒業後もつながる学校づくりを目標に行っている。

報告者: 斎藤

アライコースについては、業界就職率100%を目指して指導を行っている。航空業界については時には今回の台風被害などで厳しい状況になることも有る業界となっており、お客様への対応については1年目も10年目も変わらないので、採用する企業様もそこを意識しているため、対応出来る為厳しく指導を行っている。そして、厳しい環境でも学生が頑張れるよう一人一人のサポートをしっかりとしながら指導を行い過去3年間業界就職率100%となっている。定着率については把握する流れが構築できていないので、課題となっている。また、コース毎の運営において各コースによって指導方法が異なるのも課題である。

報告者: 伊藤

進学指導センターにおいて学習におけるモチベーション指導と志望校に合格する為の専門的指導の2本の柱で動いていく。前者においては担任制をとっており保護者との連携を強化している。また、保護者会などの実施など各種プログラムを実施している。その他継続的な学習モチベーションを教職員で連携しながら維持していく。今後は専任講師と非常勤講師の連携を特に意識して運営を行う予定である。

報告者: 川添

学生支援体制について学校内で大きな違いはないが、留学生は就労ビザに切り替えるときに学校の就職率や学生の出席率を見られるので、管理を厳しく行っている。また、学生管理において、文化の違いの指導などノウハウを部署全体で共有していく。その他、国によって文化的な違いがあるので、各国のノウハウの蓄積や指導を行っている。

(7)「基準6 教育環境」報告者: 東井

設備面において各コースの実習室の充実として、アライ実習室、全教室にプロジェクト設置、IPAD/電子黒板の導入を予定している。また、教員研修を定期的に行い、教員同士の学びあいの場を提供している。さらに、学生の実体験からの学びを重要視し、外部とのインターンにて働くことに

ついでに学びを通し、自ら行動し考えることができる人材育成について課題を持っている。その他災害時のマニュアルについて全職員共有し、地震・火災訓練を年 2 回実施している。学生への連絡ツールとして、災害通知・安否確認サイト・学生アプリを導入している。

(8)「基準 7 学生の募集と受け入れ」報告者: 洪

今年の 4 月は日本人 560 名入学で、昨年も 500 名を越える人数が入学しており好調に推移している。本学を検討している学生に対して、ありのままの学校の姿を伝えていくことを大事にしており、特に教育内容、就職状況など入学に必要な情報を正しく伝えている。また高等学校の教員や入学検討をしている学生の保護者と情報を共有し、入試においても公平な入学選考を行っている。その他早期からの進路決定に対応し、サポートを行っている。今後は入学前の学生に対する取り組みの強化を行っていく。

(9)「基準 8・基準 9 について」報告者: 大谷内

基準 8 の「財務」、基準 9 の「法令等の遵守」については学園が一括して作成している為、資料の確認をして下さい。

(10)「基準 10 社会貢献・地域貢献」報告者: 大谷内

社会貢献については、学園で社会貢献センターを設置し、社会貢献活動等に能動的に取り組んでいる。昨年度より献血活動を新規導入している。国際交流については、留学生事業部と連携し日本人と留学生がともに学べる場の提供や、バディプログラムなどを導入しており、現在 42 カ国の留学生が在籍している為今後も色々な取り組みの導入・強化をしていく。

(11)「総括」報告者: 瀧山

学生募集について昨年度に引き続き学生数は増加しているが、学生数増加に伴って学生サービスの水準が落ちてしまっている意味がないので、教育の品質維持に取り組んでいく。また学力の 2 極化、教授力の向上、進級率・卒業率向上に取り組んでいく予定である。さらに教室の稼働率を上げ、時間割の工夫を行い収益力向上を図る。今後は 3 年制コースの開発に取り組む。

5 協議内容

(1)「審議内容 1」質問者: 川添

留学生のみのクラスにて学んでいる学生について、日本人と交流する機会について課題を持っており、早い段階でそのような取り組みや交流において目的を持った交流の場を提供する必要があると考えている。そこで、企業や地域において日本人と留学生との交流の場をどのように設けるか? また、企業の文化や地域の歴史など留学生に学んでほしいことは?

発言者: 栗岡様

日本人と留学生の交流の場について、在学当時は留学生と交流する場が少なかった。現在での大学では留学生に対して日本人が生活をサポートするサークルなどがあるので、設置してみたらどうかと考える。また、留学生が日本文化を学ぶことも大事だが、社会の文化を学ぶ場も大切だと考えるので、企業へインターシップに参加してみることを検討してみたらどうかと考える。

発言者: 貴治様

所属の高等学校ではバディプログラムを留学生とのふれ合いの入り口としているため、そこに注力してみてもどうか?

発言者: 川添

まだまだバディプログラムについては任意で推奨しているので、今後について学生への告知方法など高等学校で取り組まれていることがあるのか?

発言者: 貴治様

特別なことはないが、留学生と日本人学生をマッチングする際、教員が入ることもある。また、企業文化や地域歴史についてはまずは日本になじむことが大事だと考える。

発言者: 三橋様

東京のある専門学校では留学生も日本人も同じクラスで学んでいる。同じ授業を受けていくので、自然と学生同士親しくなり、交流が活発になる傾向になる。一緒に授業を受ける場があればよいと考える。

発言者: 川添

就職の観点について考えたとき、留学生に期待することは?

発言者: 下西様

言語力や異文化への対応力、また、企業に違う文化を取り入れてくれることにメリットを感じている。

発言者: 川添

異なる分化を取り入れる際、対立や衝突が発生することはあるか?

発言者: 下西様

社員ではないが、インターシップ生ではあった。日本では当たり前のことが分からなかったりするのでその都度教えていくしかないと考えている。また、日本人に対しても異文化理解に対

する教育が必要だと考えている。

(2)「議案 2」質問者:瀧山

人材育成について、専門学校教員の姿、採用すべき人材、入社後の研修について課題を感じているが、アドバイスいただきたい。

発言者:小椋様

研修する時間をどのように作るかが大切であり、学校に対するロイヤリティを見つけてもらうための取り組みが大事だと考える。また留学生と日本人学生の文化の違いについて、シェアハウスなどを利用して道徳・慣習について学べる機会を作る必要があると考える。

発言者:貴治様

教員採用について、専門能力が第一に必要でその技能を確かめるようなテストやコミュニケーションスキルを計る指標を構築する必要がある。専門力を測るものとして模擬授業を行い、あえて学生の立場になっての質問などを行うなどの取り組みはどうかと考える。また、教員研修について、ベテランの講師が新任講師に付いて研修を行い、授業を見学するなど徐々にステップアップできる取り組みを導入してはどうかと考える。

発言者:大谷内

中堅社員研修についてはどうか?

発言者:下西様

ビジネスの中で研修の時間を作ることが難しいが、話し合いの場をつくることは有効だと考えている。スキルにおいては、同じ業界で学校を離れ研修を行うと違う知識を吸収できることがあるため、違う環境に身をおけるような研修があればよいと考える。また、人間力向上もひとつ重要な項目と考えている。

(3)「議案 3」発言者:瀧山

現在は就職・進学を目的とした運営を行っているが、今後卒業後支援の拡大を目指している。昨年よりホームシングデー(校友会)を導入している。今後についてホームシングデー(校友会)への卒業生参加を拡大するにはどうすればよいか?また学校と卒業生との関係性を維持する取り組みについて何かあるか?

発言者:栗岡様

大学編入コースに在籍していたので、参加に際して例えば編入後の具体的な就職活動の知識交流の場など、具体的なメリットがあると良いかと考える。

発言者: 貴治様

同じく参加するメリットが重要だと考える。所属高等学校の同窓会の事務局の話聞いたがやはり人が集まらず、課題として考えている。一度ビジネス交流会を行ったが、そのときは評判が良かった。その他実施時期についても重要だと考える。

発言者: 三橋様

文化祭などの学校行事と連携して校友会を実施している学校も有る。また、お世話になった先生と話したい学生の気持ちもあるかと思うので、そのような面も考慮していくと良いかと考える。

発言者: 瀧山

業界で長く活躍してもらいたいと考えており、卒業生の繋がりを強化するため、日時の課題など含め、今後取り組んでいく。

(4)「議案 4」質問者: 瀧山

3年制コースについて現在就職活動の早期化に伴い、2年制コースでは指導期間が短くなっているため、十分な指導が出来ていないという課題が有る。また現存の3年制コースもあるが、留学を伴う為、金銭面的に高くなっているため、国内で金銭面を抑えて学べ、しっかりと力をつけていける体制作りを行っている。そこでモデルケースとしてエアラインコースは3年制を実施していく予定だが、3年制コースにおける見解を頂戴したい。

発言者: 斎藤

補足として、大手航空会社のCA職において、TOEIC700点が最低条件になっている。現状入学段階での平均スコアは350点でそこから9ヶ月で350点上げることが難しい状況となっており、現在CA職になるのは3年制コースである海外インターシップコース生か、入学時よりTOEIC500点以上ある学生である。その為3年間の学習指導期間を設定し、大手航空会社のCA職に受験できる英語力習得を目指していく予定である。しかしながら1年間の学習期間が増える為、就職に向けてのモチベーションの維持が出来るかが課題となっている。

発言者: 瀧山

現在2年間で色々なことを経験するのは難しい部分もあることを含めて3年制を検討しているが、企業様における入社してほしい人材の基準等の考えなどあるか?

発言者: 三橋様

3年制コースにおいて目標を達成できなかった学生はどうなるのか?

発言者: 瀧山

進路変更、受験企業変更で対応している。

発言者: 貴治様

授業料についてはどのように考えているのか?

発言者: 瀧山

正式決定ではないが、現在の2年制コースにプラス1年間分の学費を増やす予定で、既存の3年制コースよりは減らしたいと考えている。

発言者: 貴治様

金銭面で退学する学生もいるので、そこを考慮する必要があると考える。

発言者: 下西様

3年制コースについては学ぶ時間が増えるので、進路決定の時間も増え良いと考えるが、3年間をバージョンを維持することに対して課題だと感じる。また、個人的には今後3年制が増えると良いと考える。

発言者: 小椋様

3年間学ぶことは良いことだが、他コースにおいて考えると、より具体的な取得資格や卒業後の進路を明確化することで学生にとっても理解しやすいコースになるかと考える。

(5)「議題5」質問者: 伊藤

学園として、進学希望の学生に対して進学指導センターを設置したが、専門学校としては職業知識を学ぶ場であるという認識であるため、今後進学を目的とした専門学校にどのような事を期待されるのか?

発言者: 栗岡様

期待したい点として2点あり、大学選びに関するキャリアコンサルタントがいるとありがたかった。また編入においては入学後サークルに入ったり、新たに人間関係を構築する事に難しさがあるので、専門学校で一緒に学習した仲間との交流の場をより提供する必要があると考える。

発言者: 貴治様

専門学校において、出口に関するノウハウに強みがあるので、そのようなアドバイスが出来るスタッフ配置などがあれば期待したい。

発言者:伊藤

専門学校における受験指導についてどう考えるか?

発言者:小椋様

指導に関しては良いと感じるが、逆に学生がやりたいことに対する進路先のアドバイスが非常に大切になってくると感じる。専門科目は学ぶことが出来るかもしれないが、社会に出ると人間力も非常に大事になると感じる。ホームカミングデイ(校友会)においてもコース毎であれば集まりやすいと考える。個人的な意見としてはECCでの語学力を身につけて就職していくことが大事だと考える。

(6)「その他質疑・応答」発言者:大谷内

発言者:貴治様

高等学校でもそうだが、2020年が節目として重要だと考えており、そこに向けて各学校が対策されているのだと感じた。

発言者:下西様

留学生の就労ビザ申請について、業種・内容で異なっていくのか?

発言者:川添

学校で学んだ内容と就職後の行う業務の関連性が非常に重要になる。

また学歴によっても差があり、大学卒業資格と専門学校卒業資格で申請の許可・不許可が変わってくる。

次回:2019年2月23日(土)予定(時間未定)

【総括】

今年度よりあらたに現役高校教員、本学専任教員を評価メンバーに加えより幅広い立場で意見交換できる体制に変更した。評価報告書についても昨年まで使用していたものからフォーマットを変更し、よりきめ細かな評価を行うように変更した。また、専門課程以外に留学生(日本語学科、専門課程留学生対象コース)進学系(進学指導センター)の部門においてもそれぞれ自己評価を実施し、3部門共通の報告書を作成した。学園としては学校評価体制の構築に取り組んでおり、①自己点検充実、②学校関係者評価改善、③2020年第三者評価受審にむけて評価体制の整備を行っている。今回の学校関係者評価委員会では、学校運営上の重点課題5点について集中的に議論を行い、いただいた意見については今後の学校運営に反映していきたい。

以上

